

経営発達支援計画
令和7年度伴走型小規模事業者支援推進事業

地域経済動向調査 Report

～京丹後市版～

(令和7年1月 ～ 令和7年3月)

京丹後市商工会

＜調査概要＞

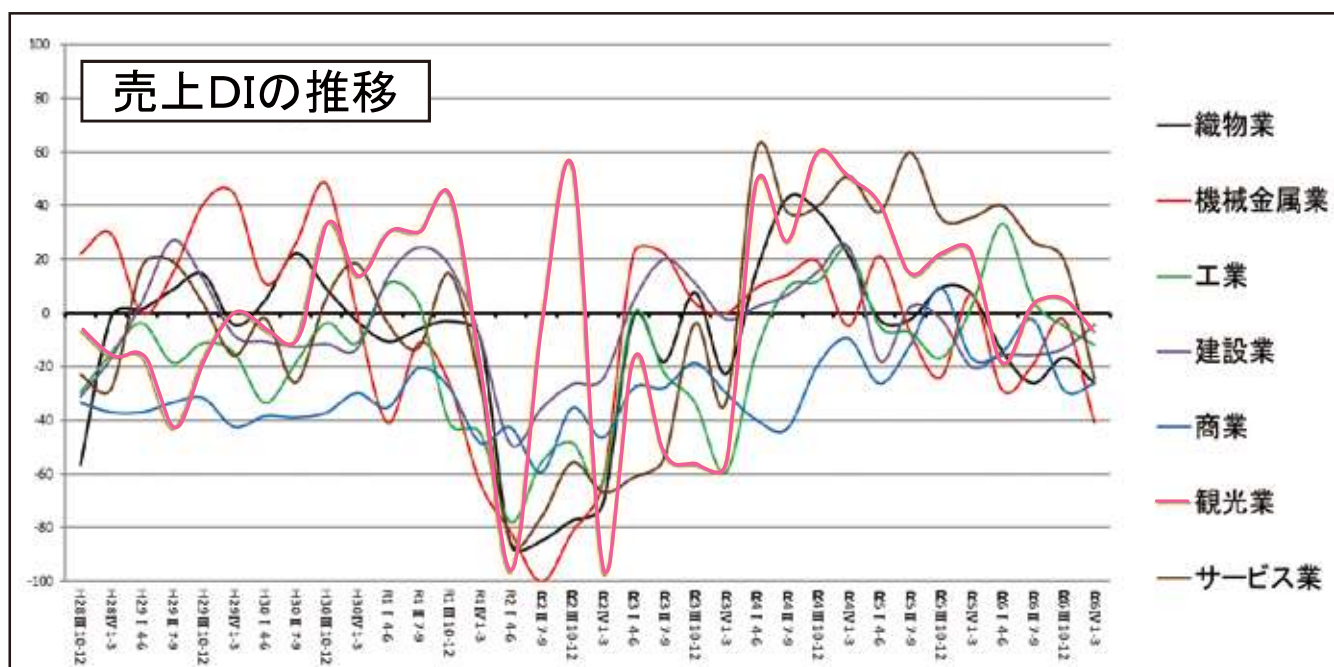
【調査対象】地域内の小規模事業者等100件

【調査期間】2025年1月～ 3月

【調査方法】当商工会経営支援員による巡回ヒアリングにおける調査票への選択記入式

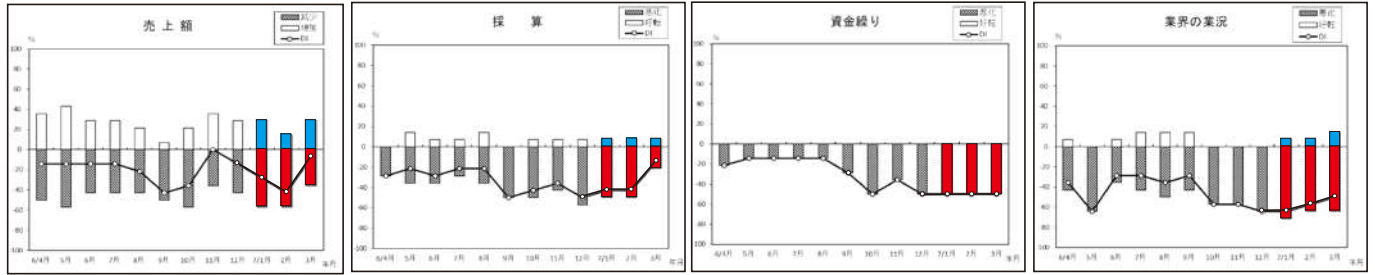
＜産業全体＞あらゆるコストが高騰し、基幹産業を中心に先行きが不透明となっている市内事業者

1月～3月の市内小規模事業者経済動向調査は、国内経済に対する不安感や冬季の大雪・最強寒波の繰り返しで、業種ごとに様々な影響があった。前四半期とは異なり、特に基幹産業（機械金属業・観光業）とサービス業については、売上DI・業況DIともに大きく悪化した。仕入価格・経費のいずれにおいても物価高の影響が大きく、労働人口の減少による人手不足や最低賃金の引き上げによる人件費の増加も重なり、各業種において経営に苦しむコメントが目立ってきている。先行きが不透明であることから、引き続き各業種の動向把握と、市場変化への対応が必要な状況にある。



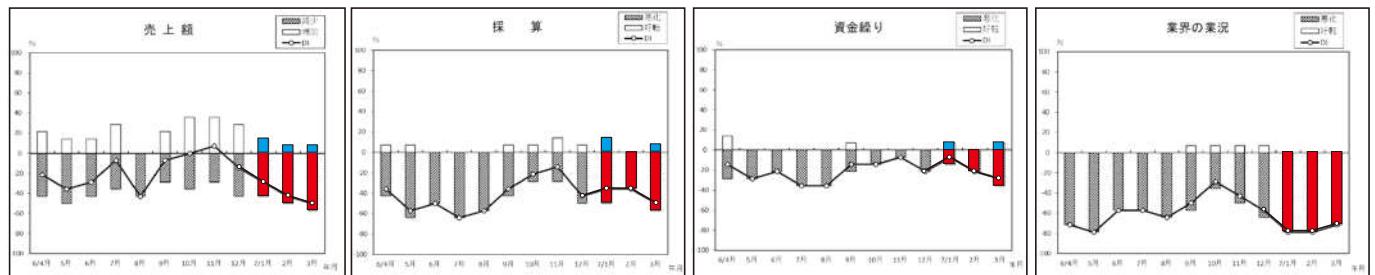
織物業 採算は小さく改善するも、生産調整や担い手不足により経営の明暗が二極化している織物業

織物業の1月～3月は、3月に売上DI・採算DIが若干の改善を示したが、依然として低水準で推移している。前四半期との比較では、売上DIが-9.5ポイント悪化、資金繰りDI・業況DIは横ばい、採算DIは+9.5ポイント改善した。売上DIがプラス域にあった前年同時期との比較では-33.3ポイントと大きく悪化している。経営支援員からは、減産・生産調整による売上減少と高齢化による担い手不足が目立ち、経営は明暗が二極化しているとの報告があった。



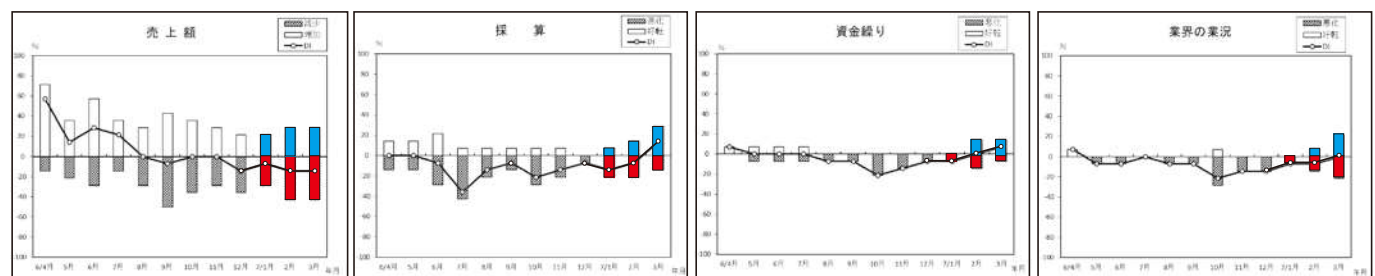
機械金属業 取引先の業績悪化による受注減少と、コスト高による経営圧迫で見通しが厳しい機械金属業

機械金属業の1月～3月は、売上DI・採算DI・資金繰りDIともに減少・悪化傾向を示している。前四半期との比較では、売上DI・業況DIともに-30ポイント超と大きく悪化し、採算DIも-14.3ポイント悪化している。年間の全項目をみても、11月の売上DIを除き、マイナス域が続いている。経営支援員からは、コスト高による経営圧迫が続いており、設備投資への余裕がない。また、業界として全体的に業績悪化の傾向で受注が減少しており、価格転嫁を行うことができないとの報告があった。



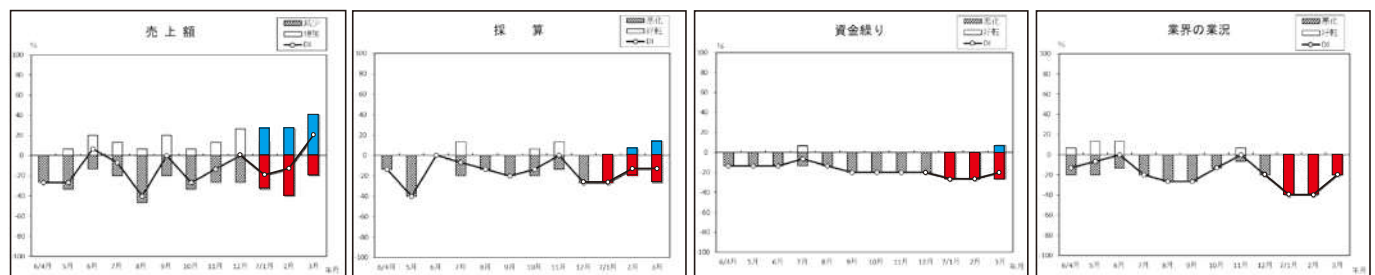
工業 コスト分の価格転嫁に取り組むも、消費者の節約志向が定着しており改善の先行きが見えにくい工業

工業の1月～3月は、売上DI以外の項目は小幅な改善となっている。前四半期との比較では、売上DIが+7.1ポイント改善、その他の項目も平均して+12ポイント改善しているが、前年同四半期と比べると、売上DIが-14.3ポイント減少しており、その他の項目は横ばいの状態となっている。経営支援員からは、自動車販売はメーカーの供給が遅延。食品製造は原価上昇で価格転嫁に踏み切ったが、いずれの業種も最終消費者の節約志向が強く、今後が心配との報告があった。



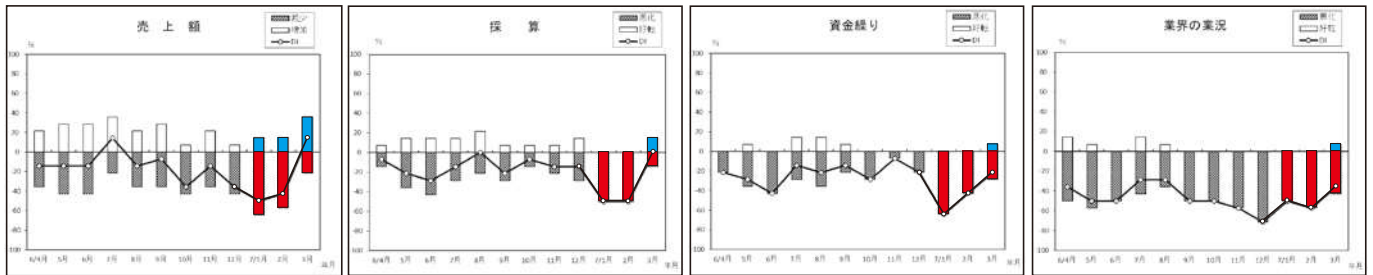
建設業 季節的な要因で売上が増加するも、低水準の推移が続いており利益圧迫で経営に苦慮している建設業

建設業の1月～3月は、暖冬であった昨年と比べ積雪による除雪作業等で売上DIが増加したが、その他項目は概ね横ばいの状態を示し、マイナス水準で推移している。前四半期との比較では、売上DIが+8.9ポイント増加したが、その他の項目は悪化しており、特に業況DIが-22.2ポイントと大きく悪化した。経営支援員からは、季節的な要因で売上が増加した事業所が見られたが、公共工事予算が減少傾向にあり、人手不足よりも仕事不足に陥る可能性があるとの報告があった。



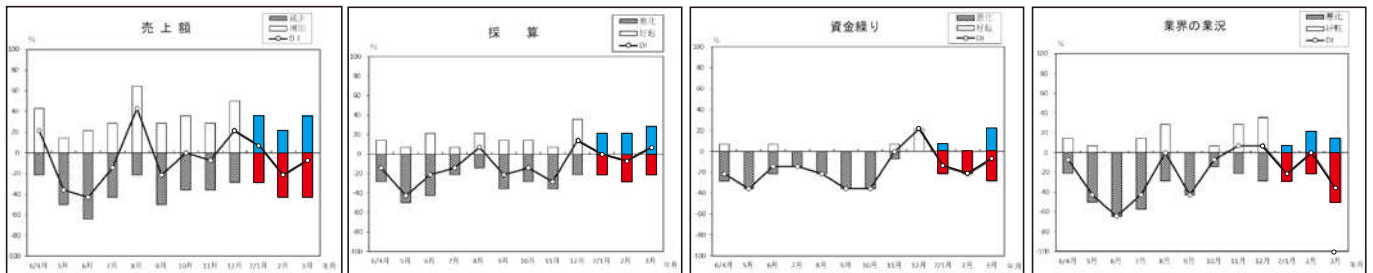
商 業 大雪と寒波の影響により客足が遠のき、さらに大型スーパー閉店による消費変化が注目される商業

商業の1月～3月は、全ての項目DIで改善傾向を示している。しかし、前年同四半期との比較では、売上DIが－9.5ポイント、採算DIが－16.7ポイント、資金繰りDIが－23.9ポイント、業況DIが－4.7ポイントとそれぞれ悪化している。物価高騰による値上げが続いているなか、大雪と寒波の影響で客足が遠のいたことが、各DIに影響していると見える。経営支援員からは、市内の大型スーパーの閉店で、消費の動向が変化するため注視していく必要があるとの報告があった。



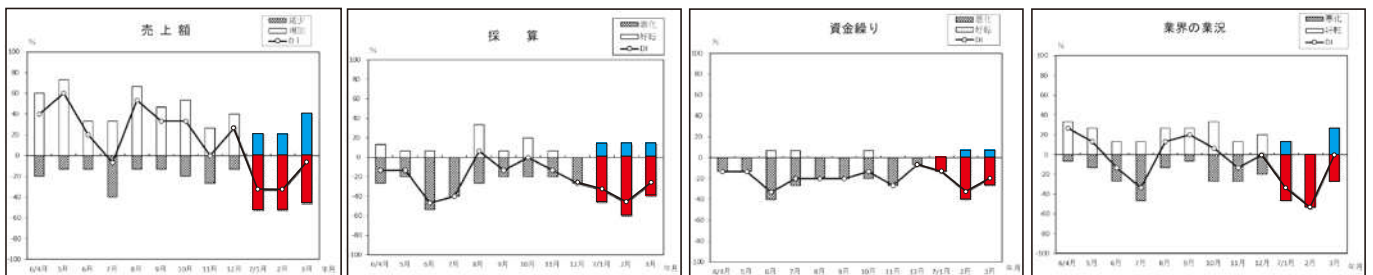
観 光 業 昨年同時期の好調から一転し、不安定な冬季シーズンとなり経営の伸び悩みが見える観光業

観光業の1月～3月は、全ての項目DIで改善と悪化を繰り返している。前年の売上DIは1年間を通してプラス域で推移し、安定して好調であったが一転し、前年同四半期との比較では、特に売上DIが－29.3ポイントと大きく減少している。経営支援員からは、大雪と最強寒波についてのメディア情報が連続的に先行し、宿泊キャンセルが相次いだ。また、旅行控えも感じるなど、不安定な冬季シーズンであった。様々なコストも増加しており、経営の伸び悩みが見えるとの報告があった。



サービス業 約3年ぶりに売上DIが連続したマイナス域となり、仕入価格の高騰で利益確保が困難なサービス業

サービス業の1月～3月は、12月までの売上DIのプラス域の推移とは異なり、約3年ぶりにマイナス域での連続推移となった。前四半期との比較では、売上DIが－44.4の減少であり、前年同時期との比較でも－60ポイントと大きく減少した。他の業種と同じく、大雪と寒波の影響が顕著であった。経営支援員からは、大雪により休業せざるを得ない状況もあり、多くの事業で売上が減り、景況感も連動している。仕入価格も高騰しており、利益が圧迫されているとの報告があった。



DI値とは…

DI値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、企業の業況感や売上額などの各種判断を指数化したものです。一般的に「変化の方向性を捉える」といった特徴を持つといわれ、各指標の数値が上昇しているのか低下しているのかを調べ、景気がどれくらい波及しているかを把握するためのものです。もともとは循環する景気の動きを計測するために、NBER(全米経済研究所)でウェスリー・C・ミッチェル(Wesley Clair Mitchell)らが1938年に開発したもので、現在でも内閣府が毎月公表している「景気動向指数」の算出などに使われています。

DIの具体的な算出方法は、各指標によって異なりますが、当会では、時系列データとして【売上】【採算】【資金繰り】【業界の業況】の4項目をヒアリングし、増加(プラス)／減少(マイナス)などの属性に分類して、その属性の個数の全系列数に占める割合などから算出しています。